

山行報告書

京都田辺山友会

報告者 山下 隆

山名	小豆島	山行名	小豆島三山
ルート	松井山手—神戸港—坂手港—(小豆島3山)—土庄港—岡山—新大阪		
山行日	2013. 11. 25~27	天候	晴・晴
参加者	リーダー： 山下 隆 サブリーダー：石田 輝夫 男性： 秋月、守口、山口、石田、山下 女性： 西上、守口、加藤、岸田、頼、堀尾 合計： 11名		

< コースタイム >

寒霞溪 612m	11/25	松井山手 22—神戸港 1:00
△皇踏山 390m	△星ヶ城山 817m	11/26 7:40 坂手港 7:50—9:48 洞雲山頂上--
	△碁石山 434	10:55 碁石寺展望台 11:27---碁石寺 11:54—
土庄港	△洞雲山 361m	-(タケノ)1216 寒霞溪ケーブル下---頂上
	坂手港	---(星ヶ城山往復)---頂上 14:55---15:38 猪谷 (バス 草壁港乗換) —16:30 土庄港(宿)

11/27 土庄バス停 6:45—7:00 小馬超バス停---笠ヶ滝寺 7:33---(へんろ道)---8:28 分岐---東展望台---9:48 皇踏山 10:00---西展望台---(急坂)---11:20 登山口-----12:00 土庄港 14:30—19:00 新田辺

山行報告

予定では 11/24~26 を計画していたが、メインの日の天候が思わしくないので、出発を一日ずらしたおかげで登山中は天候に恵まれ、小豆島の山・海・紅葉等の絶景を十分に堪能することが出来た。当初は参加者 16 名だったが、残念ながら体調をくずし 11 名の参加となった。京田辺駅からの夜中の電車に乗り合わせ、日にちをまたぎ、神戸港を am1:00 発の夜行船に乗り、美しい日の出を眺めながら、予定より 40 分位遅れての早朝の坂手港に着く。船賃は 1800 円と格安だ。

小豆島にも 88ヶ所観音霊場があり、3 番の観音寺の門前を通り、一心寺に向かう。境内に着くも登山口がなかなか見つからず右往左往する。ガイドブックを再確認しながら、廃トイレ前の狭い登山口から登り始める。いきなりガレバを四つん這いで慎重に進む。小豆島の登山者は少ないので、踏み跡や標識が極めて少ない。岩場を登っていくと、小さな石の祠のある洞雲山 361m に着く。360 度の展望があり、海・山・紅葉と光が織りなす光景に皆歓声を上げる。これから向かう碁石山や西部劇に出てくるような大獄山、寒霞溪方面、四国の屋島もよく見える。景色を堪能した後、碁石山に向かうも、船の遅れや登山口探しでの時間ロスがあり、碁石山の麓で引き返す。碁石寺の裏山で坂手港を見下ろす絶景ポイントに出会い、早めの昼食とした。マイクロバスを呼び、寒霞溪のケーブル下に移動し、2 山目の寒霞溪・星ヶ城山を目指す。

ケーブル乗り場の左手から表 12 景を登る。登山口のモミジの紅葉は見頃を迎えていて、これからの登りの景色に期待が膨らむ。それぞれの岩には名前が付いていて、解説板や句碑が充実している。赤・黄葉の木々の間から岩稜が覗き、自然が織りなす超大型盆栽を手中にするようにも見える。最後にアルプスのような岩場を登ると「四望頂」に着く。名前のごとく四方の景色は文句なしだが頂上近くは紅葉のピークは残念ながら過ぎていた。ここからはなだらかな尾根歩きとなる。

頂上のケーブル駅で、これからのタイムスケジュールを見直す。予定よりは遅れているので、1 時間で帰ってくることにして、I さんに留守役を引き受けていただき、空身で星ヶ城山に向かい、西展望台で引き返す。洞雲山の展望があまりにもすばらしかったので、物足りない絶景というには贅沢すぎる。裏八景の下りはバスの時間を気にしながら必死で下る。途中の景色を楽しむ余裕はほとんどなかったが、途中の石門洞ではホットする。猪谷バス停に予定時間の 3-4 分前に無事到着した。大師の宿は私の妻が絵手紙の関係で数年来懇意にしていた関係もあり、料金以上の料理で熱烈歓迎していただき皆さんも大満足していただいた。

翌日は土庄港にデーンと構えるユニークな形をした皇踏山 394m を目指す。宿の好意で、朝 6 時の

朝食。15分間のバスに乗り、小馬超峠で下車し、舗装道路を笠ヶ岳不動に向かう。ここでも、登山口を探すのに昨日と同様に右往左往となる。丁度 8:00 になり、管理人が到着し、道を教えてもらえた。行者やお参りの方は歓迎するが、登山者はあまり歓迎されていないような雰囲気だ。突き当りの鐘の裏側から遍路道が始まり、道祖神に案内してもらおう。足元は登山靴でないと危ない。

標識のある四辻に出て、計画した道であることが確認出来てホットする。小豆島にも「小豆島 山の会」があり、表示等の整備に尽力していることが解る。東展望台でコーヒータイムをとり、眼下の土庄港や景色を楽しむ。早朝出発のおかげもあり眺望は申し分ない。なだらかな皇踏山頂上に行った後、西展望台を経由し、土庄の町まで急坂を下る。小豆島の山だからとあなどれないきつさだった。町の中から振り返る皇踏山は堂々としていて、歩いている時よりずっと立派だった。港のそばにある「24の瞳」の銅像の前で我ら22の瞳は一列に並び記念写真を撮る。又、宿に戻り、おかみさんが力を込めて作っていただいた 讃岐うどんとチラシ寿司でほっこり時間となった。岡山駅に着く頃には小雨になり、天の神に感謝した。

5年後に又、元気で再訪しようと 宿の弘法大師の像の前で誓う。会費を事前に集めようとの声もあり、彼岸に行ってしまういたらどうするのか・・・とワイワイ楽しい時間を過ごした。

ヒヤリハット：ありません。

感想文

山下企画 小豆島の山旅

‘13.11.25-27

秋月 康敏

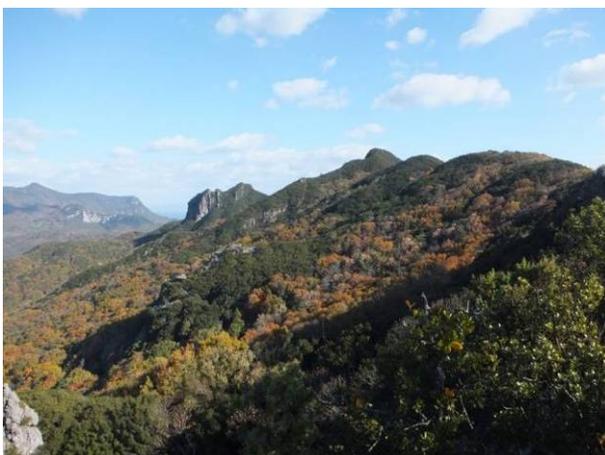
同行者：山下、山口、守口、石田、堀尾、西上、加藤、岸田、頼、守口（22の瞳）

25・26日 今年の4月に走ろう会のメンバーで弘法大師さんの功德を偲んで小豆島ミニ 88ヶ寺霊所の巡礼マラニックの計画案が出た。私も呼びかけ人の1人に入っており、これは大変なことになってきた・・・、何しろ走ってのお参りになるのだから！そのような話を山下さんに話したら、後日彼から「小豆島にも乙女の寝顔があるよ」と言って小豆島の乙女の寝顔の写真が送られた。乙女の寝顔は今年の3月 25～26日に山口企画で、関西百名山：和歌山の半作嶺と大塔山へ行った時に山下さんも一緒だったのだ。

山の姿が乙女が寝ているような形で、近くの温泉も乙女の湯と名前がついていた。その後小豆島への企画を催促して今回の「小豆島三山登山」の個人山行企画になった。公表前に申し込みをした。私はもう何年前に行ったのだろうか、その時は乙女の寝顔には気がつかなかった。総員16名の参加者だったのが、風邪・ぎっくり腰・体調不良などで結果11名になったが、元気そのものだ！JR三宮からバスに乗るのを僅か30分程度だから歩こうとなり、市役所前、税関前を通り抜けて波止場に



和歌山半作嶺から見た乙女の寝顔



に着いた。神戸港発を前にして、船中でゆっくり寝るのを前提に少し飲んだ。

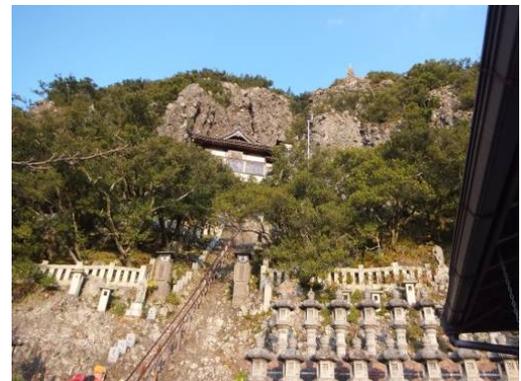
乗船客は月曜日なので少なく、大きなフロアを悠々と寝た、途中高松港に立ち寄ったようだが気がつかなかった。坂手港到着前の朝焼けはきれいだった！下船すると洞雲山が奮い立つように聳

えている！思いの他きつい山だ！岩稜むきだしだ！私達はその洞雲山を見上げた！岩稜だらけだ！

「1番霊所洞雲山」の標識を抜けて讃岐十景のひとつ絶景の島々を見た。竹生島にも似た島があった。ほどなく崖の高い所に祠が祀ってある、これは三徳山の投げ入れ堂にも似た祠で、急な細い階段の最上部にある、歩けるのか？と少し躊躇していると守口さんが先頭を切って上りだした。私も続いた、そして全員が・・・途中で交差する巾もない急な道だった。そこには観世音菩薩が祀ってあった。次の碁石山へ行くのだが風がきつく帽子が飛ばされそう！タオルで帽子の上から頬かむりをした、見ると岸田・頼さんも頬かむりをしていた。しばらく行くと9時53分視界が開けて碁石山が見えた！まるでアパッチ砦だ！空は澄みわたり、清々しい空気を満喫して小豆島紅葉を楽しんで歩く何とすばらしい山旅なんだ！と感じた。雨予想のため一日順延したのは正解だ。すばらしい天気とメンバーに恵まれて、小豆島の山旅はいい読みをしていると全員が感じたことだろう。



私と頼さんは星ヶ城山の東峰まで行ったので、メンバーに迷惑かけないように追いつくべく走った！走った！頼さんの脚力には参った！少しルール違反したが追いついたので大きなクレームにはならなかった・・・。寒霞溪のロープウェイを後にして下山開始は15時だった。裏百景から石門堂に抜けると、三徳山：投入れ堂に似た大きな祠があった。紅葉に囲まれて鎮座していた。あたり一面は紅い絨毯になっていてメンバー全員がカメラマンになっていた。下山も中々見応えのある景色で、横を見ると奇岩が聳えていた。やっとバス停に着いた。バス時間がぎりぎりになっていたの、誰かがバスを停めて待ってくれと言ったが、路線バスは待ってくれないのでは？と思いつつも先頭で急ぎ足にしたのだった。夕食タイムは豪華な食事で大満足した。



27日 朝起きて24の瞳の銅像前で、あ～これだったんだ・・・と思いながら皇踏山を見た。多分あの山だろう。土庄のバス停から約30分奥之院笠ヶ瀧寺不動へ行く。少し上りの舗装道路を歩き、笠ヶ瀧本坊、そこから更に20分ほど上り坂を歩いて笠ヶ瀧寺本坊に着いた。CL,SLが道を確認、本坊の横を通って奥の院：笠ヶ瀧不動に7時40分に着いた。開門は8時になっているが、朝早いということはいいことだ・・・と思い急な岩稜の階段を上った、石鎚山のクサリ行場を想い出す。岩稜が溶岩で固まっているから何とか両手で岩を掴み、クサリを使って上れたが大変な行場だ。後で確認したが「ここは行場で登山道ではありません」と標識が出ていた。斜度は50～60度はあると思われた。山上の堂の奥には洞穴があって「幸いくぐり」と記してある。そこから皇踏山への道が見つからず山口さん2～3名が本坊まで道の確認に下って行った。皇踏山への道は山上の本坊奥からになるとの事だ。やはりこういう時は現地の方に聞かないといけないとベテラン山口さんの声だ。皇踏山目指して急な行場道にも思えるところを歩くと看板があった。それは「ウバメガシの純林」の説明書きで「1本の木にめ花とお花がつき、花粉は風によってはこぼれます。花は4月の終わり頃に咲き10月頃どんぐりになります」と記してあった。この樹林は500m程のトンネルだった。9時半に皇踏山の山頂、瀬戸内海が一望にあり屋島もよく見える。全山紅葉と澄みわたった空と海は



私達の心を和ませてくれた。下山してから、世界一狭い「土淵海峡」を見て宿に向かった。24の瞳の前で楽しかった山旅に感謝してビールで祝杯を挙げた。宿ではおかみさんが「うどんとバ



世界一狭い海峡

ラ寿司」を振舞ってくれた。

土庄港には山下奥さんが記した絵手紙が大きな石でモニュメントにして展示されており、京田辺市の山下秀子作と記してあった。出発前はラクラクハイクと思っていたが、厳しい急登の岩稜の山々と全山紅葉の「石と歩んだ歴史の島」とのお別れになった。心に残る小豆島三山登山でした。

小豆島の乙女の寝顔の山は確かにあった、残念！写真には撮れなかった。どなたかください。

感想文

小豆島 3 山登山に参加して

山口 博

小豆島には昨年行って来ましたが寒霞溪の紅葉を是非見たいと思って居ましたので、個人山行の案内が有り早速に参加の申し込みをしました。

新田辺を夜の 10 時前に出発して三の宮から神戸港から深夜のフェリーに乗船しました。

フェリーには枕や毛布も無くてがらんとして、船室には私達の他は数名で、照明が明るくて頭から上着を被りごろ寝ですが、なかなか寝付けませんでした。

やっと眠ったと思ったら高松港到着の船内放送があり、それからは眠れませんでした。

坂出港に 7 時到着し、三番札所観音寺から洞雲山を目指して歩きました。一番札所洞雲山に着きましたが、登山道が見つかりません。道を尋ねるにも人が居なくて、石田さんがネットで調べたガイドを頼りに登山道を探しました。

引き返して立ち寄った洞窟の漢音像に登る途中の右側にそれらしい踏み跡がありここを登ると稜線への登山道に出ました。

稜線の西側は切り立った岩山で頂上は展望が素晴らしく、周辺の島々や坂出港や草壁港が見えます。下山の時間を考えて基石山への登山を諦めて途中から引き返して基石寺へ下山しました。暫らく待ってマイクロバスで移動、30 分で寒霞溪の紅葉亭ケーブル乗り場に着きました。

ここからの登山道を奇岩と紅葉を楽しみながら登り、やがて展望台に着きました。

三笠山まで往復 1 時間を散策して下山しました。頂上付近の紅葉は既に終わっていて、登山道は色とりどりの紅葉の絨毯ですが、写真で見ていた寒霞溪の紅葉が見られず残念でした。今年の紅葉の最盛期には 11 月 10 日前後のようでした。ここからはバスで今日の宿泊地の土庄港の「大師の宿」に着きました。

この宿は山下さんの奥さんの知り合いの宿だそうで、食堂には奥さんの絵手紙が一面でまるで個展のようです。お土産の包装紙も奥さんの絵手紙が使われていました。



宿の料理は食べきれない程でこれも山下さんの奥方のお蔭でサービス大満足しました。

27日早朝7時前のバスで移動、観音寺から一心寺への遍路道を歩き、一心寺の急な階段を延々と登りました。ここに直登の岩場の行者道が有りますがロープで通行止め、「ここから登って事故でもしたら山友会の名折れだね」とリーダー。

下の駐車場に一台の車が来たので階段を降りて登山口を尋ねました。お寺の人で「登山道はずっと下の車道を歩いて登って行かないと駄目です」。ネットで登山道が有ると書いてあると云うと、「鐘撞堂の横から行ける、気をつけて登れば登山する人は大丈夫です」やれやれ！下に降りなくても登れる。標識も無くこの道は初めてでは判らない。

道端には観音像の道標が続いている。これは信者さんの奥の院へ参拝された道の様です。

登山道は「うばめがし」の樹林帯を歩く。この木は関西では「バベ」と呼ばれ垣根や庭の植木に使われています。和歌山にも沢山あり木は硬いので備長炭に使われている。展望台からは土庄の町が眼下に展望で出来て、昨年歩いた引き潮の「エンジェルロード」も見える。この付近には山城の石跡が残っています。やがて皇踏山に着きました。

引き返して土庄へ下山道は急でした。予定の時間の12時に下山し“24の瞳”の銅像の前で記念写真を撮り、コンビニでゲットしたビールで乾杯、2日間の山行が無事に終了しました。

「大師の宿」で山下さんが手配してくれた、さぬきうどんとバラ寿司の昼食を頂き2時30分の出航まで時間をつぶしました。

元気な女性は「真柏」を見にお寺に行きましたが、下山時に飲んだビールが残っていてそんな元気が有りません。

今回の山行は思ったよりハードでしたが面白い登山でした。



里山は登山口を探すのが大変ですね。1日延ばして天気も最高で楽しい山行でした。登山道やバスの時間を調べ迎えの車の手配など、こんな企画は大変ですね。計画から宿の手配などお世話になり、有り難う御座いました。

山下企画に感謝！感謝！ 又面白い企画を待っていますよ。

